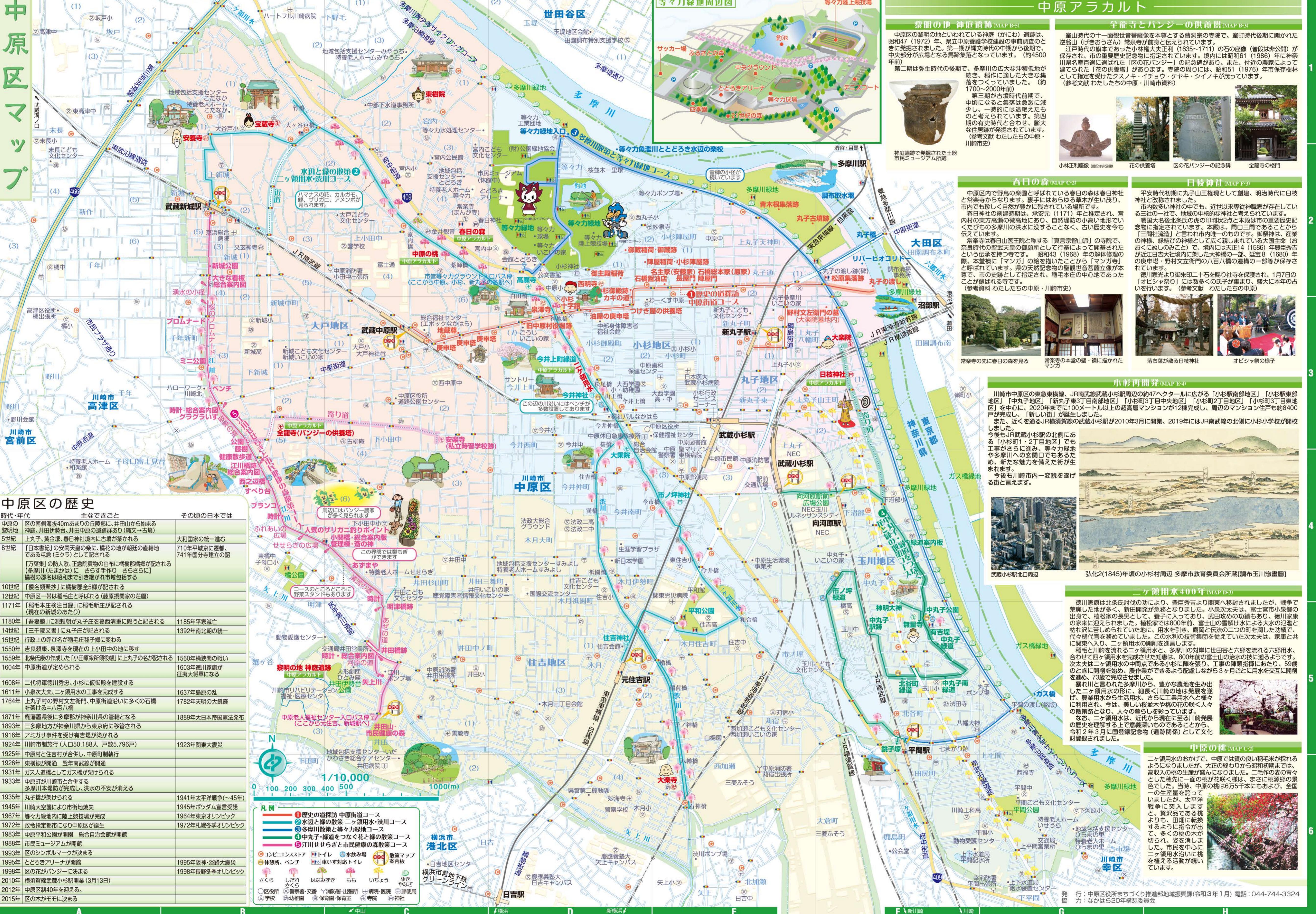


# 中原区マップ



この地図に掲載されている情報は平成23年1月現在のものです。

掲載記事の主な出典元：わたしたちの中原

## 中原アラカルト

### 全龍寺とパンジーの供養塔(MAP B-3)

室山時代の十一面觀音菩薩像を本尊とする唐洞宗の寺院で、室町時代後期に開かれました。逆翁(ぎくおう)常寺翁が前身と伝えられています。江戸時代の旗本であった小林利正(1635-1711)の石の座像(普段は非公開)が保存され、市の重要歴史記念物に指定されています。境内には昭和61(1986)年に神奈川県名勝百選に選ばれた「区の花パンジー」の記念碑があり、また、付近の農家によって建てられた「花の供養塔」があります。寺院の周りには、昭和51(1976)年市保存樹木として指定を受けたクスノキ・イチヨウ・ケヤキ・シノキが茂っています。(参考文献 わたしたちの中原・川崎市資料)



### 日枝神社(MAP F-3)

平安時代初期に丸子山王権として創建、明治時代に日枝社と改称されました。市内数多の神社の中でも、近世以来聖徳神體が存在している三社の之一で、地域の中核的な神社と考えられています。戦国大名後北条氏の虎の印判状2点と本殿は市の重要歴史記念物に指定されています。本殿は、間口三間であることから「三間社造」と言われています。御祭神は、産業の神様、縁結びの神様として親しまれている大國主(おおくにのみのみこと)です。境内には天正14(1586)年豊臣秀吉が近江日吉古社境内に架設した神橋の一部、延宝8(1680)年の庚申塔、野村文左衛門門の八百八橋の遺構の一部等が保存されています。

徳川家光より御朱印二十石を賜り社寺を保護され、1月7日の「オビシャ祭り」には数多くの氏子が集まり、盛大に本年の占いを行います。(参考文献 わたしたちの中原・川崎市)



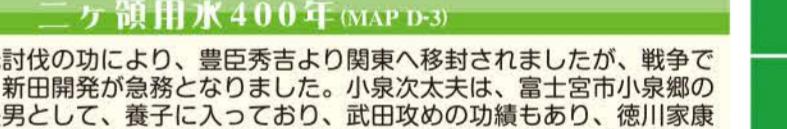
### 小杉再開発(MAP E-4)

川崎市中原区の東急東横線、JR南武線武蔵小杉駅周辺の約47ヘクタールに広がる「小杉駅南部地区」「小杉駅東部地区」「中丸子地区」「新丸子東丁目南部地区」「小杉町丁目中央地区」「小杉町2丁目東地区」を中心して、2020年までに100メートル以上の超高層マンションが12棟完成し、周辺のマンション住戸も約840戸が完成し、「新しい街」が誕生しました。

また、近くを通るJR横須賀線の武蔵小杉駅が2010年3月に開業、2019年にはJR南武線の北側に小杉小学校が開校しました。

今後もJR横須賀線の武蔵小杉駅の北側にある「小杉町1・2丁目地区」でも工事がさらに進み、等々力緑地や多摩川への玄関口でもあるため、新たな魅力を備えた街が生まれます。

今後も川崎市内一変貌を遂げる街と言えます。



### 二ヶ領用水400年(MAP D-3)

徳川家康は北条氏討伐の功により、豊臣秀吉より関東へ移封されました。小泉次大夫は、富士宮市小山郷の出身で、植松家の長男として、養子に入つており、武田攻めの功績もあり、徳川家康の家来に迎えられました。植松家では800年前、富士山の雪解け水による大水の氾濫で枯れ沢に苦しめられていた地に、用水を引き、鷹農と伝法の二つの町を潤した功績で、代々鷹農を務めています。

稻毛川を流れる二ヶ領用水と、多摩川の対岸にせた井田谷と六郷を流れる六郷用水と、合わせて四ヶ領用水を完成させた知恵は、800年前の富士山の治水の技に遡るようです。

次大夫は二ヶ領用水の工事に携わり、工事の陣頭指揮にあたり、59歳のとき工事開始を始め、農作業ができるよう配慮しながら3ヶ月ごとに用水を交番に開削を進め、73歳で完成させました。

累れ川と呼ばれた多摩川から、豊かな貴地を生み出した二ヶ領用水の形、細長く川崎の地は発展を遂げ、農業用水から生活用水、さらに工業用水など様々な利用に用いられ、今は、美しい桜並木や桃の花咲く人々の散策路となり、人々の暮らしを彩っています。

なお、二ヶ領用水は、近代から現在に至るまでも、令和2年3月に国登録記念物(遺跡関係)として文化財登録されました。

### 中原の桃(MAP C-2)

二ヶ領用水のおかげで、中原では質の良い稲米が採れるようになりましたが、太正の終わりから昭和初期までは、高収入の桃生産が盛んになりました。桃の花の咲く様子は、まさに桃源郷の景色でした。当時、中原の桃は6万5千本にもおよび、全国の生産量を跨ぐようになりましたが、太平洋戦争に突入しますと、質品である桃よりも、田畠に転換するように指令が出で、多くの桃の木が切られ、姿をしました。市民を中心に二ヶ領用水沿いに桃を植える活動が続いている。

行：中原区役所まちづくり推進部地域振興課(令和3年1月) 電話：044-744-3324 力：ながら20年構想委員会